

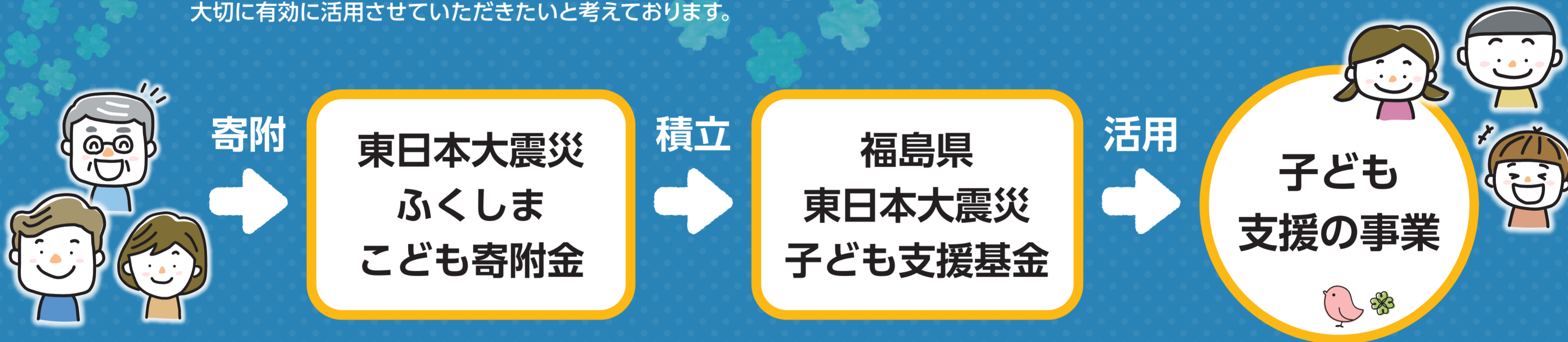
皆さまから
お寄せいただいた

東日本大震災 ふくしまこども寄附金の使い道

東日本大震災では、多くの子どもたちが親を失いました。加えて、原子力災害により、住み慣れた土地から長期間離れなければならない子どもたちも多く、様々な喪失体験によって、心に大きな負担がかかっています。

こうした中、福島県では、平成23年8月から東日本大震災による震災孤児等への支援のための寄附口座「東日本大震災ふくしまこども寄附金」を開設しています。

これまで、国内外の皆様からあたたかいご寄附をお寄せいただき、多くの子どもたちが夢に向かってはばたくことができました。これからも、子どもたちが震災前に抱いていたそれぞれの夢をあきらめることなく、着実に前に進んでいくことができるよう、大切に有効に活用させていただきたいと考えております。



1

孤児・遺児への支援

東日本大震災により保護者が死亡又は行方不明となった児童(孤児・遺児)に対して、生活及び修学を支援するための給付金を給付するための事業「福島県東日本大震災子ども支援基金給付金」を実施しています。

対象	東日本大震災により保護者が死亡又は行方不明となった児童	給付期間	大学等卒業までの期間	給付実績	給付実人員 199人 総給付額 749,460,000円 令和5年3月31日時点
----	-----------------------------	------	------------	------	--

2

5つの視点による新たな支援

震災孤児・遺児の支援に加えて、支援の対象を県内全域の子どもたちへと拡大し、下記の5つの視点から新たな支援を実施しています。

5つの視点

- 1 災害・避難等により不便を強いられている子どもへの支援
- 2 子どもたちの将来につながる取組
- 3 子どもたち及び保護者が元気になる取組
- 4 子どもたちのふるさと福島への愛着心を醸成する取組
- 5 子どもたちの本県復興への参画

ジャーナリストスクール開催事業

未来を担う子どもたちが、ふるさと「ふくしま」において、復興・再生に取り組んでいる個人、団体に対して取材し、新聞としてまとめ、情報を発信することにより、自分たちの住む「ふくしま」の良さを知るとともに、自分の将来の夢や希望を深く考えさせる機会を設けました。



アートで広げる 子どもの未来プロジェクト

県内の小中学校等に、県内外で活躍するアーティストを講師に招き、多彩なアートプログラムを体験できるワークショップを開催しました。



ふくしまを十七字で奏でよう 絆ふれあい支援事業

人と人との関わりの中で感じた思いや願い、震災からのさらなる復旧を願って「ふくしま」への思いなどを親子や友達同士のペアにより、十七音で表現した作品を募り、人と人との「絆」を強め、家庭や地域の教育力の向上を図りました。

福島県復興シンボルキャラクター「キビタン」

寄附の状況

20,765件

7,305,504,976円

令和5年3月31日時点